

問題意識をもたせ、主体的な調べ学習へつなげる指導の工夫 ～商店の学習にICTを活用した資料提示を取り入れて～

情報教育班 佐野 勝人（小学校教諭）

自己課題設定理由

児童が調べ学習を行う際に、十分に問題意識をもたせてやれなかったり、やや知識の伝達に偏った指導になってしまったりすることがある。

☆単元構想の工夫

改善策その1

①単元の導入で問題意識をもたせる活動を取り入れる。

家族の消費生活調べ（「1週間の買い物調べ」「家の人が出し物のときに、どのような品物を選ぶようにしているか」）を行い、消費者の立場から学習問題（スーパーマーケットでは、お客さんの願いにこたえるため、どのような工夫をしているだろうか。）を設定した。

②児童のフィールドワークを重視する。

見学については、保護者へのアンケートで利用の多かったスーパーマーケット2社に依頼し、売る側の人たちの工夫について具体的に調べさせた。また、見学後には2社の工夫を比較する活動を行った。

☆ICTを活用した資料の提示

改善策その2

ICTの活用では、プレゼンテーションソフトを使って、主に取材した写真などを提示した。（黒板に貼ったマグネットスクリーンにプロジェクタで提示した。）

※提示した資料（抜粋）



学習問題を設定する際に、お店の工夫の一つとして説明した。（見学への意欲付けとなった。）



2社の比較では、家の中の人の買い物への願い（「新鮮なもの」や「安全なもの」を買いたい）にこたえている点を、2社の似ているところとしてまとめた。

成果と課題

○単元の導入で家族の消費生活調べを行ったり、スーパーマーケット2社の見学を組み入れたことにより、児童が進んで学習に取り組む様子が見られた。

○ICTを活用した資料の提示を行うことにより、児童の興味・関心を引き出すことができた。なお、最初にレジの音声だけを聞かせるなど、提示方法を工夫すると、更に効果を感じられた。

△ICTの活用により児童の興味・関心を喚起することができたが、取材をしたり、プレゼンテーションソフトで加工したりするなど、授業の準備にかなりの時間を要した。今後は準備や時間の効率化も意識しながら、ICTの活用を図っていきたい。